

車椅子になつても自宅で 一人暮らしを続けたい

～多職種のかかわりで地域での生活を支える～

平成28年3月10日
居宅介護支援センター 元気村 星津智泉



【事例概要】

Aさん 女性80歳 要介護3。独居。

- ・ADL；移動は車椅子、排泄はトイレで自立、食事は自立、入浴は一部介助
- ・現病；うつ病（平成2年6月頃）、甲状腺機能の低下。
- ・既往歴；大腿骨頸部骨折（人工骨頭置換術後）左上腕骨骨折
- ・服薬；自己管理（神経科、循環器科から多数処方）
- ・性格；情が深い、面倒見が良、話好き、神経質、心配性、好き嫌いが激しい。
- ・経済状況；生活保護受給中
- ・介護力；弟夫婦、従兄妹の訪問あり。
- ・住環境；公営住宅1階。バリアフリー化されている。



【経過】

- 平成2年6月頃、うつ病発症。以来、A病院精神科通院中。
(焦燥感、強い不眠、全身倦怠感、頭痛などの症状)
- 平成26年1月 自転車で転倒、右踵骨骨折
同年1月、要介護認定申請により要介護1の認定を受ける。
- 平成26年8月 自宅で転倒、右大腿骨頸部骨折 人工骨頭置換術受ける。
うつ病の症状の影響でリハビリ進まずADL大きく低下。歩行器生活となる。

平成27年2月1日より○○事業所より引き継ぎ担当開始。

- 平成27年2月末 自宅で転倒、左上腕骨骨折し、リハビリ目的で入院。思うようにリハビリ進まず以後車椅子生活となる。区分変更により要介護3となる。



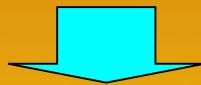
【本人の思い、意向】

- ①車椅子生活になってしまったが、自宅で暮らしたい。
- ②自宅で頻繁に転倒するので転ばないようにしたい。リハビリしたい。
- ③一人暮らしなのでいろいろと考えすぎることがあり、気が滅入ったり、落ち込んだりするので気晴らしをしたい。
- ④買物や掃除洗濯、入浴などできないこともあるので助けて欲しい。（入浴は自宅でしたい）



【日常生活上の課題】

- ・ 地域の知人から泣き付かれ、所持金を貸してしまう。
(返済は一切されない)
- ・ 精神面の好不調により、動作の安定性が大きく左右される。
(転倒を繰り返してしまう)
- ・ 良くも悪くも地域の方々とのつながりが強い。



ケアマネとしての思い；身体的にはレベルが落ちてきているが、「自宅で暮らしたい」という本人の強い思い、決意を尊重したい。地域の方々との交流も続いている、支援も期待できることから、専門職と地域の方々との多職種協働により自宅での生活の維持ができるのではないかと考える。



【支援内容】

〔フォーマルサービス〕

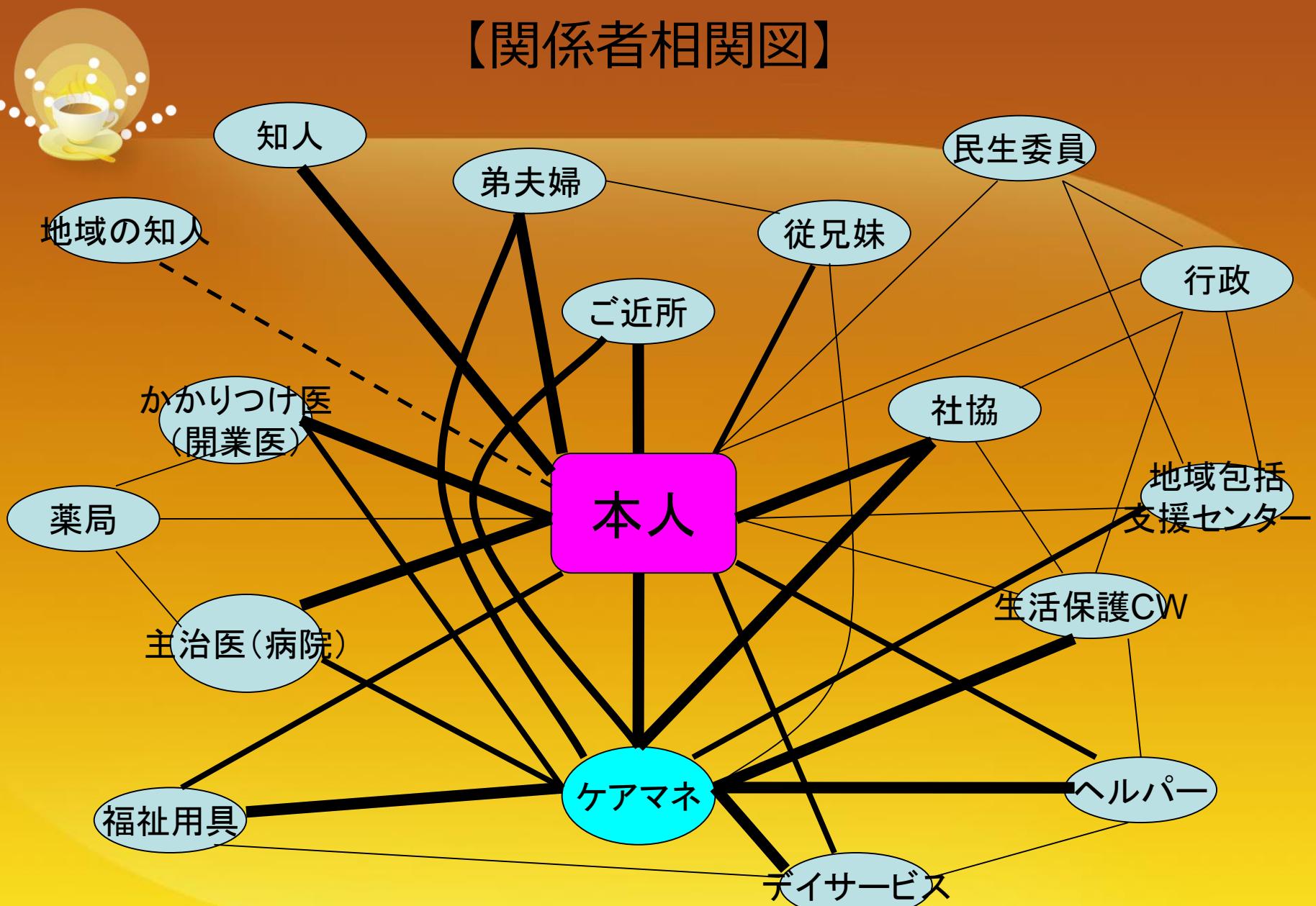
- ・ヘルパーサービス；週3回、入浴介助、買物外出と代行、通院介助、掃除や洗濯、一部調理。
- ・デイサービス；週3回
- ・福祉用具レンタル；電動ベッド、車椅子、手すり2ヶ所

〔インフォーマル〕

- ・日常生活自立支援事業
- ・ご近所の支援；見守りや話し相手、外食や美容室への連れ出し、選挙、急な通院時の対応など。

※本人が直接ご近所の方へ連絡し、依頼されることが多いです。介護サービスの利用が困難な場合は、こちらから依頼することもあります。

【関係者相関図】





ご清聴有難うございました。